



【4月の気象】

4月になると花木や草花が色とりどりの花を咲かせ、当台で観測している道後公園の桜も満開（平年は4月3日）となる頃で、やわらかい春の陽射しとともに暖かくなっていく季節となります。松山市の4月の平均気温の平年値（1991～2020年）は、14.8℃、上旬から下旬にかけて3.2℃上昇しています。

また、瀬戸内地方では気温が上昇する反面、雨量が少なく、湿度も低くなるため、空気が乾燥し火災の発生しやすい気象条件となることが多くなります。

一方、低気圧が3～4日の周期で西日本を通過するようになります。低気圧が日本海を発達しながら東進する場合、南よりの強風が吹きやすく、低気圧からのびる寒冷前線が通過する時には、突風や竜巻、激しい雨、ひょうなど激しい現象が起きることがあります。また、移動性高気圧に覆われて晴れた朝は、放射冷却現象によって気温が低下し霜が降りることがあり、農作物の管理に注意が必要です。

【気象用語】「気象災害」とは

愛媛県における4月の気象災害（右表）は、気象庁の統計による昭和20年～令和3年（1945～2021）に愛媛県で発生した気象現象別災害回数です。濃霧による海上や陸上の交通障害や船舶事故の被害が多く、次いで強風・波浪による災害、乾燥による林野火災なども多くなっています。空気が乾燥する気象状況の際には、気象台から乾燥注意報を発表し注意を呼びかけます。あわせて強風注意報が発表されている状況では火の取り扱いに十分な注意が必要です。

| 気象現象 | 回数 |
|-------|----|
| 濃霧 | 17 |
| 強風・波浪 | 7 |
| 乾燥 | 6 |
| 強風 | 5 |
| 大雨 | 4 |
| 霜 | 3 |
| 計 | 42 |

表中の回数は、気象災害の発生原因となった気象現象別に分けた発生回数です。同じ期間に発生した災害の原因が複数の気象現象であった場合は、気象現象を「強風・波浪」のようにして発生回数としています。

また、気象庁では、上記のような命名した災害を含め、気象災害に対する理解を深めることを目的として、過去に発生した主な気象災害事例の詳細をホームページに掲載しています。これらには、天気図や台風の経路図、気象観測値や概要なども記載していますので、参考にしてください。

災害をもたらした気象事例（気象庁） ↓

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/index.html>

- ・災害をもたらした気象事例（平成元年～本年）
平成元年以降の被害を総合的にみて規模の大きなもの、社会的な関心・影響が高いものを掲載しています。
- ・災害をもたらした気象事例（昭和20～63年）
昭和20～63年の気象庁が命名した台風の事例及び死者・行方不明者数が100名以上の風水害・雪害の事例を掲載しています。
- ・災害をもたらした気象事例（長期緩慢災害）
昭和29年（1954年）以降に発生した、農業被害額が500億円以上の冷害・長雨・干害等を掲載しています。

なお、顕著な災害を起こした自然現象については、過去に発生した大規模な災害における経験や貴重な教訓を後世代に伝承するため、命名して共通の名称を使用します。これにより、防災関係機関等が災害発生後の応急、復旧活動を円滑に実施することが期待されます。